

## 安全データシート(SDS)

作成日 2022 年 6 月 15 日

## 1. 製品及び会社情報

製 品 名 : パードリペル  
整理番号 : FMJ-2022V-006-0015  
会 社 名 : エビオス株式会社  
担当部門 : 研究開発部  
担 当 者 : 中本 友若  
電話番号 : 082-924-6871  
FAX 番号 : 082-924-6872

## 2. 危険有害性の要約

## GHS 分類

|           |                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物理化学的危険性: | 区分外                                                                                                                                                                                                                                               |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性(経口): 区分外<br>急性毒性(経皮): 区分外<br>急性毒性(吸入): 分類対象外<br>皮膚腐食性・刺激性: 区分外<br>眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: 区分外<br>呼吸器感作性: 分類できない<br>皮膚感作性: 区分外<br>生殖細胞変異原性: 区分外<br>発がん性: 区分外<br>生殖毒性: 区分外<br>特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露): 分類できない<br>特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露): 区分外<br>吸引性呼吸器有害性: 区分外 |
| 環境に対する有害性 | 水生環境急性有害性: 分類できない<br>水生環境慢性有害性: 分類できない                                                                                                                                                                                                            |

## 3. 組成、成分情報物質

化学名又は一般名: ブチルゴム・合成樹脂を主成分とする混合物  
CAS番号: 9010-85-9 (イソブチレン・イソプレン共重合物)  
官報公示整理番号: (6)-764 (イソブチレン・イソプレン共重合物)  
分類に寄与する不純物及び安定化添加物: 有用な情報なし  
濃度又は濃度範囲:

| 成 分   | 含有率     |
|-------|---------|
| ブチルゴム | 25～40 % |
| 合成樹脂  | 30～40 % |
| 軟化剤   | 20～30 % |
| 無機充填材 | 10～15 % |

※芯材として上記混合物の中心部にポリエチレン発泡体またはポリプロピレン樹脂を有する。

#### 4. 応急措置

吸入した場合： 該当しない。

皮膚に付着した場合： 特に人体への影響は考えられないが、石鹼と水にて皮膚を良く洗う。

目に入った場合： 直ちに流水で数分間洗浄する。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄した後、眼科医の診断・手当を受ける。

飲み込んだ場合： 出来るだけ早く吐きださせ、水でうがいをし口の中をよく洗浄する。必要に応じて医師の診断・手当を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状： 情報なし

最も重要な兆候および症状： 情報なし

---

#### 5. 火災時の措置

消火剤： 霧状の強化液、粉末、炭酸ガス、泡が有効。

使ってはならない消火剤： 棒状水の使用は火災を拡大し危険な場合がある。

特有の危険有害性： 有用な情報なし

特有の消火方法： 火元への燃焼源を断つ。

初期の火災には、粉末消火剤、炭酸ガス消火剤を用いる。

大規模火災には、泡消火剤を用いての空気の遮断が有効である。

周囲の設備等に散水して冷却する。

火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行う者の保護： 消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。

---

#### 6. 漏出時の措置

常温下で固体状の製品のため該当せず。

---

#### 7. 取扱い及び保管上の注意

##### 取扱い

技術的対策： 有用な情報なし

局所排気・全体換気： 加工時（特に高温時）は通気の良い箇所で行うか、局所換気装置を用いる。

安全取扱い注意事項： 有用な情報なし

接触回避： 有用な情報なし

##### 保管

技術的対策： 有用な情報なし

保管条件： 局所的な熱の発生源を避けて、通気の良い冷暗所に保管する。

混触危険物質： 有用な情報なし

容器包装材料： 有用な情報なし

---

#### 8. 暴露防止および保護措置

管理濃度： 設定されていない

許容濃度： 設定されていない

設備対策： 特になし

##### 保護具

呼吸器の保護具： 必要に応じてマスク等を着用する。

手の保護具： 適当な手袋を着用すること。

眼の保護具： 必要に応じて保護眼鏡を着用する。

皮膚および身体の保護具： 適当な保護衣を着用すること。

衛生対策： 取り扱い後は良く手を洗うこと。

---

---

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など： 灰色固体

臭い： 高温時にはゴム臭がある

pH： 該当しない

融点、凝固点： 軟化点 100℃以上

沸点、初留点および沸騰範囲： データなし

引火点： データなし

発火点： データなし

比重(密度)： 約 1.02 (23℃)

溶解度： 水に不溶。芳香族系、アルコール系、ケトン系に可溶

自然発火温度： データなし

分解温度： データなし

臭いのしきい(閾)値： データなし

燃焼性(固体、ガス)： データなし

---

## 10. 安定性および反応性

安定性： 通常の貯蔵・取扱いの条件においては安定である。

危険有害反応可能性： 安定

避けるべき条件： 過熱

混触危険物質： 有機溶剤との接触を避ける。

危険有害な分解生成物： 有用な情報なし

---

## 11. 有害性情報

急性毒性

経口： データなし

経皮： データなし

吸入： データなし

皮膚腐食性・刺激性： データなし

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性： データなし

呼吸器感作性または皮膚感作性： データなし

発がん性： データなし

生殖毒性： データなし

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)： データなし

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)： データなし

吸引性呼吸器有害性： データなし

---

## 12. 環境影響情報

水生環境急性有害性： データなし

水生環境慢性有害性： データなし

---

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物： 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合そこに委託して処理する。

---

---

#### 14. 輸送上の注意

##### 国内規制

陸上規制情報： 消防法の規定に従う。

海上規制情報： 船舶安全法の規定に従う。

国連分類： 該当しない。

国連番号： なし

特別の安全対策： 取扱いおよび保管上の注意の項の記載による他、輸送中の荷崩れによって他に危害、損害を及ぼす恐れのないように行う。

---

#### 15. 適用法令

消防法： 指定可燃物(3,000kg 以上の場合)

---

#### 16. その他の情報

##### 参考文献

GHS対応のMSDSの書き方（社団法人 日本化学工業会）

GHS対応ガイドライン 製品安全データシート作成指針(改訂2版)（社団法人 日本化学工業会）

産業衛生学雑誌（日本産業衛生学会）

TLV and BEIs（ACGIH）

GHS分類結果データベース（独立行政法人 製品評価技術基盤機構）

※ここに記載された情報は、当社の最善の知見に基づくものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。すべての化学品には未知の有害性が有り得るため、取り扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行って下さい。